

慶應義塾大学日吉キャンパス特色 GP
「文系学生への実験を重視した自然科学教育」

第 2 回シンポジウム

～ 様々なカリキュラムの可能性 ～

日時：11 月 22 日（水）午後 1 時～午後 5 時

会場：日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペース

趣旨

近年の少子化による「大学全入時代」到来目前の 2006 年度は、新学習指導要領のいわゆる「ゆとり教育」を受けた世代が初めて入学した年であり、今後学生の意識・関心・意欲・学力がこれまでと比べてますます多様化、あるいは分散化していくことが予想される。その対策として、中等教育からの継続性をより強める「大学の学校化」も否めない一つの方向性として議論されつつある。このように、教育環境が大きく変化する時代に、大学が学生の様々な要望を踏まえて、現代社会を先導できる人材を送り出すためには、何をどのように教えれば良いかを改めて議論する必要がある。特に、これからの社会においてさらに重要性を増すと思われる科学・技術の知見や考え方は、文系学生にとっても修得すべき教育内容であるが、その場合の有効なカリキュラムのあり方について議論することは極めて重要な意味をもつ。

「今どんな教育が行われているのか」というテーマで 2006 年 3 月に開催された慶應義塾大学日吉キャンパス特色 GP 第 1 回シンポジウムでは、慶應義塾大学におけるこれまでの実験を重視した文系自然科学教育の意義を再確認し、また学内文系専門課程学生に対する自然科学教育の現状を概観した。今回の第 2 回シンポジウムでは、視野をさらに広げ、学外において様々な文系自然科学教育を主導されている方々に、そのカリキュラムの形態と内容についてご報告いただく。本シンポジウムの目的は、この報告とそれに対する質疑応答を通して、副専攻制等も含めた新たなカリキュラムの可能性を模索することである。また、2005 年 12 月～2006 年 1 月に本学文系学部在学学生を対象として実施した、「文系専門課程の自然科学教育に関するアンケート」の分析結果を報告し、学生側の意識や要望に即した文系専門課程のカリキュラムについても議論する。